

# 生涯教育研修活動報告書

輸血検査研究班

- 1 実施日時：2024年6月7日 19時00分～21時00分
- 2 会場：ソニックシティビル602会議室 教科・点数：専門教科-20点
- 3 主題：輸血実技研修会参加者必須講座  
～輸血検査の手技、判定方法、注意点など～  
講演1：血液型検査  
講演2：不規則抗体検査
- 4 講師：講演1：廣田 渉（さいたま赤十字病院）  
講演2：岩崎 篤史（自治医科大学附属さいたま医療センター）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 34名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 廣田渉 佐々木翔太 大垣秀友 志村祥太  
渡邊寧々

## 8 研修内容の概要・感想など

今回は7月28日に予定している輸血実技研修会の事前必須講座『輸血検査の手技、判定方法、注意点など』をテーマとして研修会を行った。昨今、自動輸血検査装置を導入している施設が増加傾向であるが、自動輸血検査装置での判定保留時の対応や追加検査を行う際には試験管法で実施しなくてはならない。つまり試験管法での知識や技術習得は安全な輸血医療を行う上で必要不可欠である。

廣田氏の講演はABO・Rh血液型検査の基礎から検査の基本操作および予期せぬ反応への対応についての説明であった。ABO血液型は不適合輸血を防ぐために輸血前に行われる重要な検査であり、管理された試薬、方法および手順のもと正しい判定が行わなければならない。基本操作の第1ステップとなる赤血球浮遊液の作製法は血球濃度の異なる浮遊液の写真が提示され、色調の違いを確認することが出来た。第2ステップとなる試薬・検体の分注に関しては、検査用試験管の準備は結果判定の記録と同じように並べることで分注ミスや判定ミスを防ぐことが出来るというポイントの説明があった。各基本操作において、注意点を把握することで、人為的ミスを防ぐことができると理解できた。第3ステップとなる凝集強度の見

方では、各反応強度の写真が提示されており、凝集の特徴や背景の色調に関して大変分かりやすく認識することができた。弱い凝集でも見落とさないために、試験管の傾け方やセルボタンの流し方を習得することで、誤判定を防止することができる。

岩崎氏の講演の不規則抗体検査では、不規則抗体の基礎とスクリーニングから同定検査までの検査の流れと消去法についての説明があった。複数の症例を提示し、消去法の考え方が大変よく理解できた。同定検査において、否定できない抗体が残ってしまった場合の追加検査の進め方や薬剤による影響など、実際のルーチン業務での対応方法も含めて説明があり、明日からの業務にも役立つ内容であった。

安全な輸血医療の提供は検査を行う臨床検査技師の力量に大きな影響を受けるため、検査実施者はその影響を理解しておくことが重要である。今回の講演の内容をルーチン業務に生かすことで、各個人の力量の向上に繋がると考える。7月に行う実技研修会においても、参加者がよりスキルアップできる研修会を行っていきたい。

提出日：2024年6月14日

文責：宮澤翔子